

よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第 28 号 主のご降誕 (2024 年 12 月 24 日) 発行



クリスマスだ、さあ集まろう！

ヨアキム 川上 剛 神父

イエスの直弟子聖ヨハネは次のように言っている。「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」(Iヨハネの手紙4章)

私たちキリスト者は例外なく、聖ヨハネのこの信仰を受け継いでいる。受け継いでいるが、それに十分に答えているかと問われたら・・・、十分に答えていないから、時々不安になることがあると言うのが現実かも知れない。しかし、受け止められず応えられなくとも、神はそのすべてに先立って、私たちを愛していると聖ヨハネは証言しているのである。

その日、私たちのこの世の中にひとりの人が生まれた。私たちひとり一人を名指して愛してくださる方がいて、その方が父である神なのだということを、身をもって示したひとりの人が生まれた。

私たち人間の「道であり、真理であり、いのちである」ひとりの人が生まれた(ヨハネ福音書14章)。

この人は、やがて、人であることのすべての重荷を背負って苦しみ、十字架で死ぬことになる。しかし、そのように生きた人を、父である神は見捨てない。しっかりと受けとめ、本当のいのち、神の復活のいのちの中に復活させるのである。

この人をわたしたちはキリストと呼び、救い主と呼んでいるのである。

キリストは、だから今も生きている。すべての人のいのちの連帯の中に、本当のいのちの姿で生きていると信じている。

クリスマスとは、そのキリストの誕生を祝う喜びの日なのである。

さあ、仲間と共に、みんなで誘って集まろう！

🎄 Merry Christmas and a Happy New Year! 🎄

霊における会話に参加して

ヨハネ 沖野 正和

10月14日に「札幌教区のシノドスの集い」が札幌のカトリックセンターで開催されました。司祭をはじめ、一般信徒も多数参加し、「霊における会話」を体験しました。参加者は5～6人ずつ、6つのグループに分かれ、祈りを捧げた後、新約聖書の「エマオで現れる」（ルカ 24章 13-35節）の朗読を聴きました。

第1ステップでは、祈りの中で得たものを分かち合い、他のメンバーが語る内容に敬意を持って傾聴します。分かち合いを進める中で、イエスが弟子たちに見えなかった理由を考察。イエスに「物わかりが悪い」と指摘された言葉に一瞬反発しながらも、心が燃えた体験に気づき、他者からの言葉を受け取る難しさを実感しました。

第2ステップでは、第1ステップで聞いた内容を基に、祈りの中で思い巡らせたことを分かち合います。自分の意見を深めるのではなく、他者の意見を尊重しつつ、心に浮かんだことを語ります。この過程を通して、他者の言葉に対する自身の態度を振り返り、行動力や勇気を神に祈り求める思いが芽生えました。イエスが弟子たちと共にいる場面を通して、弟子たちの反応を深く考察し、時間を聖化しようとする思いと、エマオの弟子たちの行動力に自分が及ばないと感じていることに気づきました。

第3ステップでは、これまでのステップを通じて感じたことをキーワードにして付箋に書き出し、一人5枚ほどにまとめました。付箋を順に出しながら、それぞれが考えたことを発表し、関連するキーワードを集めて分類し、「名前」を付けました。

最後に全体を見渡してまとめ、聖霊がこのグループをどこに導こうとしているのかを感じ取ることが重要なポイントとなりました。

今回は最後にグループ発表を行い、この取り組みを各小教区に持ち帰り、ぜひ実践してほしいとの提案がありました。それによって教会が「ともに歩む教会（シノド斯的教会）」へと変わっていくことを期待しています。



11月24日に当教会で開催された黙想会

旅先で訪ねた教会について 2

アシジのフランシスコ 持田 誠

*前号に引き続き持田さんが訪問された教会についての記事を掲載します。

カトリック小樽住ノ江教会

私は以前に小樽市の博物館で勤務していたことがあります。その頃から住ノ江教会の存在は知っていましたが、訪ねたことがありませんでした。その住ノ江教会（小樽教会住ノ江聖堂）が今年の4月末で廃止されると聞き、その前にぜひ一度訪ねておきたいと考え、ちょうど連続勤務の振替休を消費しなければならないタイミングもあって、日帰りで小樽へ急行しました。

釧路から訪ねたというと、信徒の方々は一様に驚かれていましたが、元民家を改装した建物の由来や教会の歴史など、さまざまな方々が説明やご案内をして下さいました。小樽最後の常駐司祭となった新海神父様のミサに与ることが出来、感謝です。



カトリック^{もとてらこうじ}元寺小路教会（仙台）

土中から出てきた古い金属資料などに、長期保存のための化学的な処置を施すことを保存科学処理といいます。この処理ができる専門業者が、東日本では仙台市にあります。このため、毎年一回、仙台市へ資料を持参して出張しています。

今年は日曜日に仙台に着きました。仙台駅にほど近いカトリック元寺小路教会が、18時から夕方のミサを捧げていることを知り、出席させてもらいました。

ちょうどこの日は外国語ミサでした。いつもの聞き慣れた典礼聖歌とは異なる、東南アジアの言葉で歌われた聖歌が新鮮でした。信徒の方によれば、夕べのミサは仙台在住の外国の方が多いとのこと。皆さん仲が良く、教会の役割も見事に分担されていて、まさにシノドスの実践を見る思いがしました。

また来年、できれば日曜日に仙台を訪ねたいと思っています。と告げると信徒の方がとても喜んでおられました。



マウリリオ神父様から釧路地区各教会の信徒の皆様へ

兄弟たち、姉妹たち、クリスマスと新年のお慶びを申し上げます！皆様に伝えたいこと、たくさんありますが、皆さんのことを忘れないで、毎日祈りの中で皆さんのことを思い出しながら、イエスの御心に委ねます。

信頼を持って、希望を持って、また皆さんと会うことができると思います。こちらか、または天国で！とにかく、あなた方のこと忘

れないでいますから、あなた方も私のことを思い出したら、私のために祈ってください。

皆さんにお世話になったこと、忘れないから、感謝の心をこの手紙で表したいと思っています。皆様、お元気でね！



11月19日、グエン・タン・トゥアンさんに
新しい家族が誕生しました。

名前はミンちゃんです
よろしくお祈りします。



編集後記

主のご降誕、おめでとうございます。この12月は喜びの月だと言われています。救い主の誕生を祝うとともに神が約束された平和の祝福で一人ひとりが希望を持って今日を生きることが出来ますように。

今年は1月初めの能登半島地震から始まり、自然災害が多く、世界では戦争や紛争が多く起こっています。早く平和が来て、世界中の子供から大人たちまで皆が今年もクリスマスのお祝い出来ますよう願っています。(H.O)

カトリック釧路教会 〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会